

## アスヒカズラ *Lycopodium complanatum* L.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ヒカゲノカズラ科 Lycopodiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

小型の常緑性シダ。匍匐茎は長く這い、まばらに分岐、鱗片様の葉をまばらにつける。側枝は扇形に分岐する。直立茎の小枝は扁平、表面は緑色、裏は淡緑色で筋ははっきりする。孢子嚢穂は3~10 cmの長さの柄に1~5個つき円柱形、孢子葉は密につき、広卵形で鋭尖頭である。

### 2. 分布

国外では北半球の温帯に、国内では北海道、本州（岡山県以北）、四国（徳島県）に分布する。県内では東部（富士山）、中部（南アルプス荒川岳、樺島など）に分布する。

### 3. 生育環境

山岳地帯の林内、やや陰湿潤地、向陽の山地林下や草原に広く分布する。

### 4. 生育状況

産地はきわめて少ない。

### 5. 減少の主要因と脅威

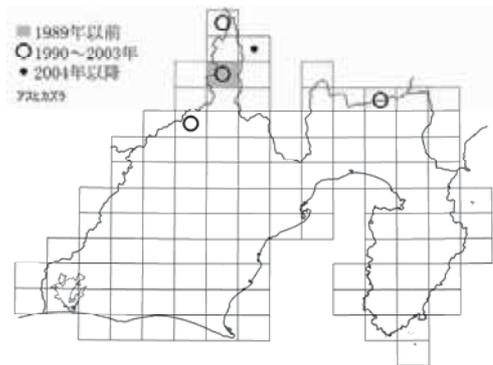
自然遷移 (54) による自然環境の悪化、踏みつけ (51) や乾燥化 (71) などによる生育地の破壊、減少や絶滅が懸念される。

### 6. 保護対策

登山道の整備、登山者による踏みつけなどによる生育地の乾燥化、環境変化を防ぐ必要がある。(細倉哲穂)



静岡市 2001年7月21日 宮崎一夫



## ハマハナヤスリ *Ophioglossum thermale* Kom.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ハナヤスリ科 Ophioglossaceae

[2004年版カテゴリー 部会注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

小型の夏緑性シダ。大きなものでは20 cmほど。孢子葉と栄養葉に分かれ、下部で共通柄となる。孢子葉はやや狭く線形。生育期間は4~10月で、孢子は初夏から熟し始める。孢子の表面模様はコヒロハナヤスリに似ている。但し、内陸のものはコハナヤスリにも似てきて、中間型もあり、区別困難の型のものが多くなる。コハナヤスリとの関連については今後の課題である。

### 2. 分布

国外ではロシア（カムチャツカ、シベリア）、中国、台湾、南洋諸島に、国内では日本全土に分布する。県内では東部（三島市）、西部（御前崎市、磐田市、浜松市など）に分布する。

### 3. 生育環境

海岸近くの湿った砂地に多く、河原の砂地にも生える。内陸にも稀にあり、墓地に生ずることもあるが、少ない。

### 4. 生育状況

生育地も少なく、個体数も少ない。

### 5. 減少の主要因と脅威

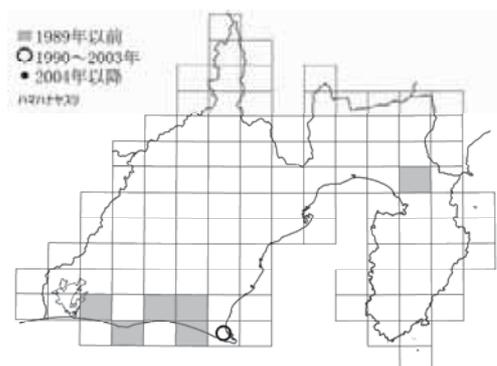
きわめて限られた環境の下に生育しており、開発行為 (23) による生育地の消失が脅威であり、現状でもある。

### 6. 保護対策

生育地の環境変化、生育地及びその周辺の開発行為を防ぐことが必要である。(細倉哲穂)



菊川市 2003年9月28日 杉野孝雄



## オオハイホラゴケ *Vandenboschia birmanica* (Bedd.) Ching

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

コケシノブ科 Hymenophyllaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

中型の常緑性シダ。コケシノブの仲間としては大型で、即ちハイホラゴケに似るがずっと大きく、葉長 30 cm にも達する。根茎は長く這い、径 1.5 mm ほどあり、暗褐～黒色の毛を密につける。葉身は広披針形、鋭頭で 3 回羽状複葉。葉柄はほとんど基部まで幅の広い翼をつける。

### 2. 分布

国外では台湾、中国、インドシナに、国内では本州（伊豆半島、紀伊半島）、九州、沖縄、伊豆諸島に分布する。県内では伊豆（西伊豆町白川）に知られ、ここが分布の東限であろう。

### 3. 生育環境

暖地の山林内の溪流沿いや陰湿な場所の岩上、地上に生育する。しばしば水に濡れるほどの所に生じる。

### 4. 生育状況

生育地は局限され、小群落を形成するが、狭い範囲にごくわずかに生育しているといった状況である。

### 5. 減少の主要因と脅威

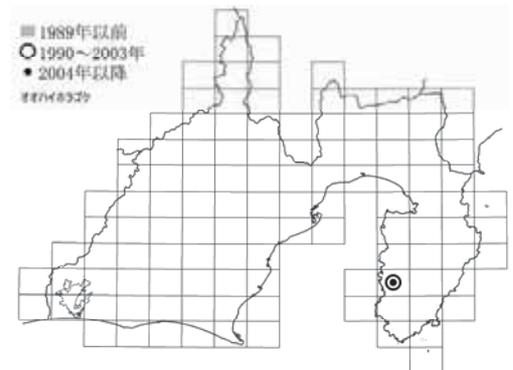
山林伐採（11）による減少、本種の生育場所の道路脇の岩壁が破壊（24）されることが、何よりも脅威である。

### 6. 保護対策

山林伐採や人の手による生育地岩壁の破壊など、環境破壊を防ぐ必要がある。（細倉哲穂）



西伊豆町 2009年3月11日 細倉哲穂



## チチブホラゴケ *Crepidomanes schmidtianum* (Zenker, ex Taschner) K. Iwats.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

コケシノブ科 Hymenophyllaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

小型の常緑性シダ。糸状の根茎が長く這い、葉がまばらに出る。葉は 2 回羽状深裂で、裂片は重なり合い、先端は鈍頭である。一見アオホラゴケに似るが、葉肉中に偽脈がない。またハイホラゴケの小型品にも似るが、チチブホラゴケには葉柄にほとんど翼がない。

### 2. 分布

国外では台湾、中国、ヒマラヤに、国内では本州（福島県、関東地方、中部地方、紀伊半島）、四国、九州に分布する。県内では西部（旧本川根町、浜松市北部）に分布する。

### 3. 生育環境

山地林内の溪流沿い、水気の多い陰湿な場所の岩上などに、コケ類とともに生育し、群生している。

### 4. 生育状況

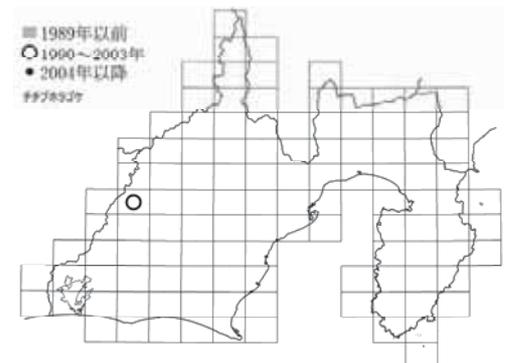
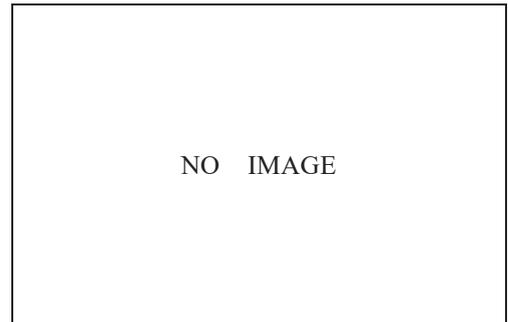
県内では生育地が限定され、大変少ないものである。

### 5. 減少の主要因と脅威

山林伐採（11）や林道の改良工事（24）など、生育環境の変化で減少している。生育地が消失した所も出てきている。

### 6. 保護対策

生育地は少なく、生育環境もきわめて限られている。山地の山林伐採、林道の改良工事などから、本種生育地の破壊や変化を防ぐことが必要である。（細倉哲穂）



## エダウチホングウシダ *Lindsaea chienii* Ching

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ホングウシダ科 Lindsaeaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

小型の常緑性シダ。根茎はごく短く這い、葉柄を密に出す。葉は1~2回羽状複生し、大きなものは長さ35 cmほどに達する。孢子嚢群は小羽片の辺縁近くに裂片ごとにつく。

### 2. 分布

国外では台湾、中国、ベトナム、タイに、国内では本州(伊豆半島以西)、四国、九州、伊豆諸島、琉球列島に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

### 3. 生育環境

低山地の常緑樹林の湿った林内に生育する。

### 4. 生育状況

伊豆、中部、西部の各地に生育する。産地は少なく個体数は少ない。多くの個体数が生育する場所もある。

### 5. 減少の主要因と脅威

山林開発(23)などで生育地が消失する危険性がある。また、山林伐採(11)などによる生育環境悪化の影響も懸念される。

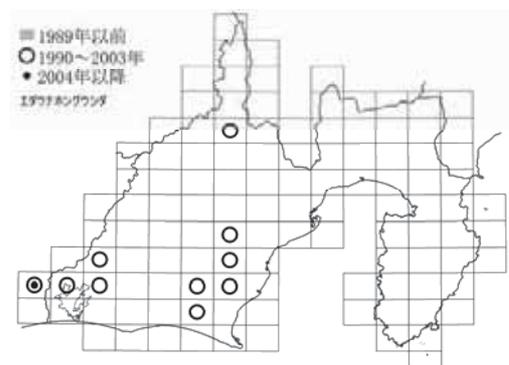
### 6. 保護対策

生育地の山林の保護が必要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2012年12月23日 内藤宇佐彦



## コタニワタリ *Asplenium scolopendrium* L.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

チャセンシダ科 Aspleniaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

中型の常緑性シダ。根茎は短く、斜上、葉柄下部とともに淡褐色の披針形の鱗片をもつ。葉身は披針形で50 cmほどまで。葉身の基部はやや狭くなり、くびれ、両側に耳片を作る。葉はやや多肉質、辺縁は全縁。孢子嚢群は中肋に直角に近い角度でつき、線形で長い。

### 2. 分布

国外ではシベリア、朝鮮半島、中国、欧州、北米に、国内では日本全土、特に日本海側に多く分布する。県内では伊豆(内陸部)と西部(旧春野町)に記録がある。

### 3. 生育環境

温帯山地の林下、やや陰湿な林床に生じる。岩の近くのような所に好んで生育する。

### 4. 生育状況

県内生育地は局限され、産地が少ない上、個体数も少ない。

### 5. 減少の主要因と脅威

生育地の山地山林の伐採(11)、水路及びその側道の改修工事(13、24)などによる環境変化が消滅の脅威となっている。

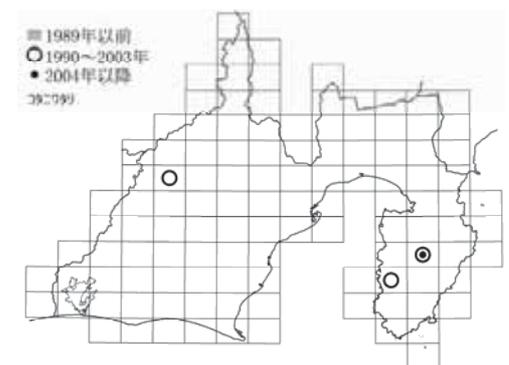
### 6. 保護対策

生育地の山地の山林伐採、水路及びその側道の改修工事による環境変化を防ぎたい。

(細倉哲穂)



伊豆市 2010年7月27日 細倉哲穂



## テツホシダ *Thelypteris interrupta* (Willd.) K. Iwats.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

ヒメシダ科 Thelypteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

大型の常緑性シダ。県内では夏緑性となる。葉は大きいものでは180 cmに達する。根茎が長く横走することと、葉の先端が矛状になり頂羽片が独立することはホシダに似るが、羽片基部は少し狭くなり、羽片は鋸歯状に切れ、孢子嚢群は辺縁寄りに位置する。

### 2. 分布

国外では亜熱帯から熱帯に、国内では本州(伊豆半島以西)、四国(徳島県・高知県)、九州、琉球列島に分布する。県内では東部(沼津市大瀬崎、旧戸田村井田、富士市浮島)と西部(旧細江町小野)に分布する。本県は東限自生地である。

### 3. 生育環境

海岸近くの池沼のほとりなどの向陽の湿地に生育する。

### 4. 生育状況

生育地が局限され、沼津市大瀬崎以外は個体数も少ない。

### 5. 減少の主要因と脅威

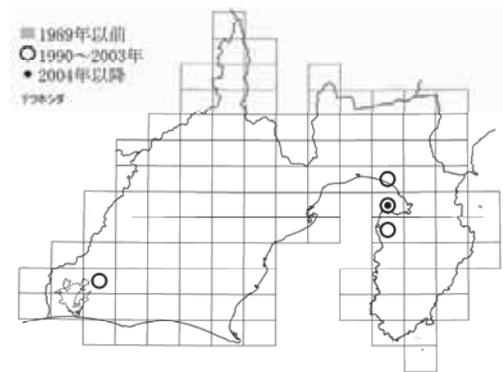
湿地開発、水田の改変工事(15)などによる生育地消失、樹木伐採(11)、植生遷移(54)による環境変化、観光客などによる踏みつけ(51)も危惧される。

### 6. 保護対策

生育地の開発、工事、伐採、観察路の管理の際は配慮を要する。また、植生遷移を抑制するための草刈りなど維持管理が必要である。(細倉哲穂・内藤宇佐彦)



沼津市 2016年9月25日 内藤宇佐彦



## メッコウシダ *Thelypteris nipponica* (Franch. et Sav.) Ching

var. *borealis* (H. Hara) H. Hara

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

ヒメシダ科 Thelypteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

中型の夏緑性シダ。基本種メッコウシダの一変種で、外形はこれとよく似ていて、どちらかという山地型のメッコウシダという形のものが多い。孢子嚢群の包膜には、腺だけあって、無毛である。なお、メッコウシダには腺も毛もある。

### 2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では北海道、本州(中部以北)に分布する。県内では東部(小山町須走、御殿場市印野、富士宮市の富士登山道)と中部(北部山地)に分布する。

### 3. 生育環境

温帯山地のやや明るい湿った草原、林内に生育し、しばしば群生する。メッコウシダと同様の所に生ずるが、それよりも高い所、山地に多い。

### 4. 生育状況

本変種も以前に比べて少なくなっている。

### 5. 減少の主要因と脅威

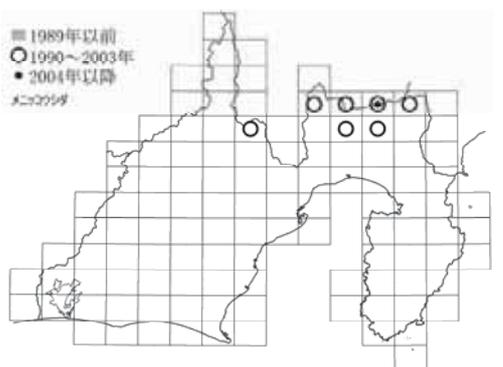
自然遷移(54)や登山者の踏みつけ(51)による減少も考えられる。

### 6. 保護対策

自然遷移による消失、減少の上に、踏みつけによる減少や環境変化を防ぐよう、登山道の管理には、特に配慮を要する。(細倉哲穂)



小山町 2005年7月12日 杉野孝雄



## ミゾシダモドキ *Thelypteris leveillei* (H. Christ) C. M. Kuo

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ヒメシダ科 Thelypteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

中型の常緑性シダ。葉は長さ 70 cm 程度。葉身は 2 回羽状に中～深裂し、最下羽片は著しく短くなる。羽片のつけ根の部分に小突起をもつ。孢子嚢群は円形で包膜を欠く。

### 2. 分布

国外では中国 (四川省、雲南省)、台湾、フィリピンに、国内では本州 (千葉県以西)、四国 (徳島県、愛媛県)、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

### 3. 生育環境

暖帯の山地の谷間。水しぶきがかかるような陰湿な岩壁に生育する。

### 4. 生育状況

伊豆、中部、西部の各地に生育する。産地は限定され、生育地での個体数は少ない。

### 5. 減少の主要因と脅威

山林伐採 (11) などで生育環境が悪化し、減少傾向がみられる。

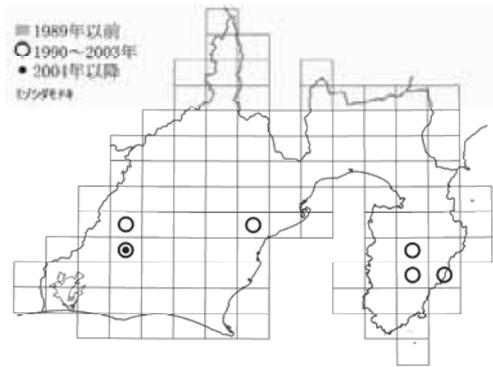
### 6. 保護対策

生育地の山林保護などが必要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 U.Naito  
浜松市 2017年1月28日 内藤宇佐彦



## イワイヌワラビ *Athyrium nikkoense* Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

イワデンダ科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

小型の夏緑性シダ。ヘビノネゴザに似て、それを小さくしたような姿をしている。葉身は披針形で下部はだんだん狭くなる。葉柄は短い。羽片は浅～中裂し、内側に耳片をもつ。孢子嚢群は裂片の辺縁近くにつき、大きくて 1 列に並び、鉤形で円腎形の包膜で覆われる。

### 2. 分布

日本固有種で、北海道、本州 (中部以北)、四国に分布する。県内では伊豆 (猫越峠、皮子平)、東部、中部 (安倍峠など) に分布する。

### 3. 生育環境

温帯山地の山中、やや明るい崖地の岩壁にごく稀に着生し、葉は下垂する。

### 4. 生育状況

生育地は局限され、岩壁面に着生して小群落を形成するが、一般的に個体数は多くない。

### 5. 減少の主要因と脅威

生育地周辺の山林伐採 (11) などによる環境破壊が脅威である。又、本種のように比較的目につきやすい山道沿いの壁面に生ずる稀少な種類は採集圧 (41) にさらされ、これも脅威である。

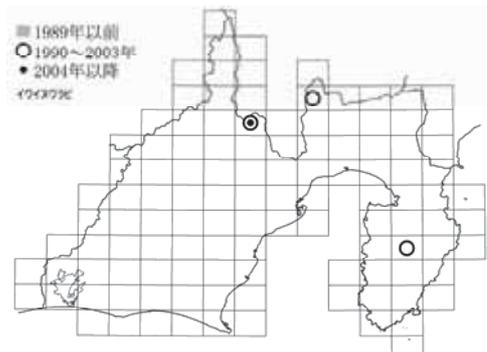
### 6. 保護対策

生育地の岩壁付近の山林伐採などに配慮することが必要である。

(細倉哲穂)



©2020 T.Sugino  
富士宮市 2001年8月30日 杉野孝雄



## ウスバミヤマノコギリシダ *Diplazium deciduum* N. Ohta et M. Takamiya

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

イワデンド科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 部会注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

中型の夏緑性シダ。ミヤマノコギリシダの一変種で、母種は常緑性。ミヤマノコギリシダと全形はよく似るが、葉質は草質で柔らかく、羽片は一般的に深く切れ込む。

### 2. 分布

日本固有種で、本州（伊豆半島以西）、四国、九州に分布する。県内では伊豆（河津町、松崎町）、中部（静岡市）、西部（旧春野町・水窪町・佐久間町・天竜市）に分布する。

### 3. 生育環境

暖地の林内、やや陰湿な場所の地上に見られる。

### 4. 生育状況

産地は点在分布、生育地は局限され、根茎は横走して小群落を作るが、個体数はそう多くない。

### 5. 減少の主要因と脅威

山林の樹木伐採（11）による生育環境の変化、破壊が脅威である。一部の産地では、登山道沿いに生育しているため、道の改修工事（24）や登山者の踏みつけ（51）が脅威となる。

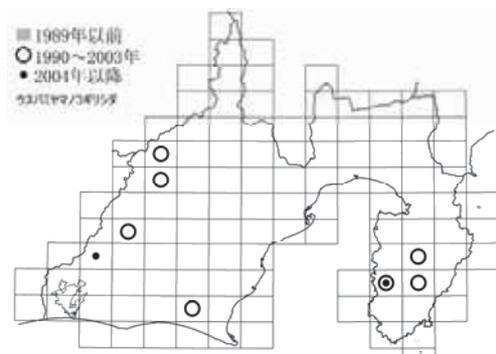
### 6. 保護対策

山林の伐採、道の改修には配慮を要する。踏みつけによる破壊を防ぐよう、登山道管理にも注意が必要。

（細倉哲穂）



松崎町 2005年9月15日 細倉哲穂



## ツクシイワヘゴ *Dryopteris commixta* Tagawa

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

中型の常緑性シダ。根茎は塊状で、斜上、直立する。葉は80 cmほどに達し、イワヘゴに似るが羽片の数は17~18対、多くても120対くらいまで。葉質は草質で生時はやや厚ぼったい。葉柄の鱗片は光沢がなく黒褐~淡黒色。包膜は著しく発達が悪いのが特徴である。

### 2. 分布

日本固有種で、本州（石川県、房総半島以西）、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

### 3. 生育環境

温暖な山地の林下のやや湿った場所に生ずる。

### 4. 生育状況

生育地は局限され、生育が知られる場所でも個体数は多くない。

### 5. 減少の主要因と脅威

山林の樹木伐採（11）、林道の工事（24）などによる環境変化で減少している。

### 6. 保護対策

山林の樹木伐採、林道の改修工事、山中の水路の工事などによる環境変化から、本種の生育環境の改変を防ぐことが必要である。

（細倉哲穂）



三島市 2007年8月12日 細倉哲穂



**ヌカイタチシダモドキ *Dryopteris labordei* (H. Christ) C. Chr.**  
**var. *indusiata* (Makino) Seriz.**

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし  
 オシダ科 Dryopteridaceae  
 [2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

**1. 種の解説**

中型の常緑性シダ。根茎は短く、斜上し葉を叢生する。葉柄下部の鱗片は線上披針形で黒～黒褐色。葉は 70 cm 前後に達し、葉身は卵状三角形を呈する。羽片はほとんど無柄で、葉軸とほぼ直角に出る。羽軸裏面には袋状鱗片がまばらにつく。胞子嚢群は中肋と辺縁との中間に位置し、包膜と芽立ちは赤みを帯びる。

**2. 分布**

国外では台湾に、国内では本州（静岡県以西）、四国、九州、沖縄に分布する。県内では伊豆（東伊豆町、河津町、南伊豆町、西伊豆町）と西部（浜松市）に分布している。

**3. 生育環境**

低山地の林内、陰湿な場所、土崖壁面などに生育する。

**4. 生育状況**

各生育地とも、個体数は多くない。

**5. 減少の主要因と脅威**

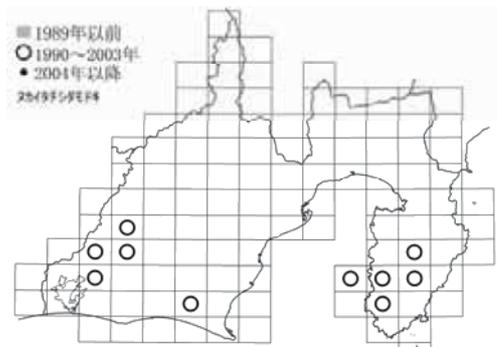
山地の土地の改変、山林の伐採、山中の土崖の削りとり工事など（11、23、24）で生育地自体の消失が懸念される。

**6. 保護対策**

生育地及びその周辺の山林の樹木伐採、山中の土崖の破壊や山道の環境整備のための改修管理に注意し、生育地の環境改変に気をつける必要がある。（細倉哲穂）



©2020 T.Hosokura  
 浜松市 1999年12月3日 細倉哲穂



**アオネカズラ *Goniophlebium niponicum* (Mett.) Bedd.**

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし  
 ウラボシ科 Polypodiaceae  
 [2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

**1. 種の解説**

小型の冬緑性シダ。葉は大きいものでは 30 cm に達することもある。青緑色、粉白の根茎は長く這い、茶褐色で広披針形の 1 mm ほどの鱗片がまばらにつく。葉質は厚いが、柔らかい草質で表面にはまばらに、裏面には密に開出毛がある。

**2. 分布**

国外では中国南部に、国内では本州（富山県及び関東地方西部以西）、四国、九州に分布する。県内では山地部に広く点在分布する。

**3. 生育環境**

暖地の低山地の山林の樹幹や岩上に着生する。

**4. 生育状況**

各地に広く分布するが、東部では生育地が局限され、個体数も少ない。西部では主として内陸部だが、割合広く産する。

**5. 減少の主要因と脅威**

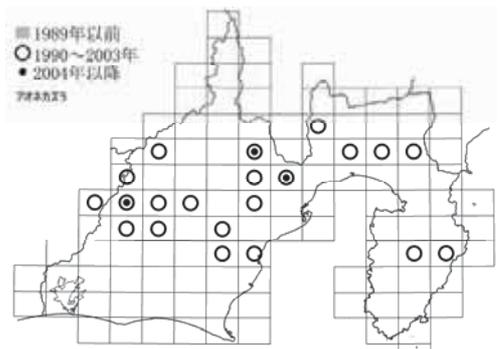
山林の伐採（11）、山中の水路工事（13）や林道の改修工事（24）による環境変化で、生育地も減り、個体数も更に減ってきた。園芸採取（41）も懸念される。

**6. 保護対策**

本種の生育地を守り、生育環境の変化を防ぐため、生育地及びその周辺の山林伐採、水路、林道の改修には配慮を要する。よく知られた園芸植物であることから、園芸採取も防止したい。（細倉哲穂）



©2020 T.Hosokura  
 沼津市 1995年1月20日 細倉哲穂



## ウスバサイシン *Asarum sieboldii* Miq.

(=サイシン)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ウマノズクサ科 Aristolochiaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

多年草。春に茎の先から2枚の葉を左右に開く。葉身は薄く長さ5~13 cm、円卵形で先は鋭形、葉柄は暗紫色。花期は4~5月。開葉直前に2枚の葉の間から1花を開く。花径10~15 mm 淡汚紅紫色で萼筒は扁球形、やや軟質で内側には17~25本の縦皺がはしる。萼裂片は三角状広卵形で先は尖る。雄蕊は12個、花柱は6個。

### 2. 分布

国外では中国中南部、朝鮮半島に、国内では本州(関東南部~中国地方)に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

### 3. 生育環境

温帯林内の少し湿った所。

### 4. 生育状況

かつては東部の毛無山山麓、中部の大井川源流部、西部の長野県との県境付近で確認されているが、今回の調査では大井川源流部でしか確認できなかった。調査不足もあるが、シカによる食害が大きいようである。

### 5. 減少の主要因と脅威

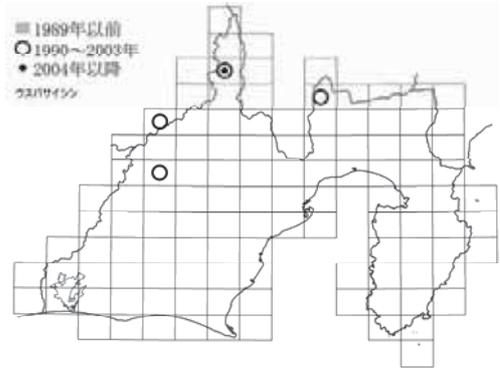
森林伐採(11)による生育環境の変化、園芸採取(41)、シカによる食害(52-1)が減少の主要因である。

### 6. 保護対策

シカによる食害を防ぐこと。(湯浅保雄)



静岡市 2015年5月8日 湯浅保雄



## バリバリノキ *Actinodaphne acuminata* (Blume) Meisn.

(=アオカゴノキ)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

クスノキ科 Lauraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

常緑高木。高さ15 mになる。葉は互生、枝の上部にやや車輪状に集まり、長披針形または倒披針形で先は長鋭尖頭、長さ10~15 cm、幅15~20 mm。薄い革質、表面は深緑色で光沢がある。裏面は灰白色で少し伏毛がある。雌雄異株。花期は8月、葉腋から短枝を出し、枝の先に1~3個の花序をつける。果実は翌年の6月に黒紫色に熟し、長楕円形で約1.5 cm。種子は1個。

### 2. 分布

日本固有種で、本州(千葉県以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

### 3. 生育環境

暖帯下位の谷間の肥沃地。

### 4. 生育状況

産地は少ないが、個体数には近年それほどの変化はないと思われる。

### 5. 減少の主要因と脅威

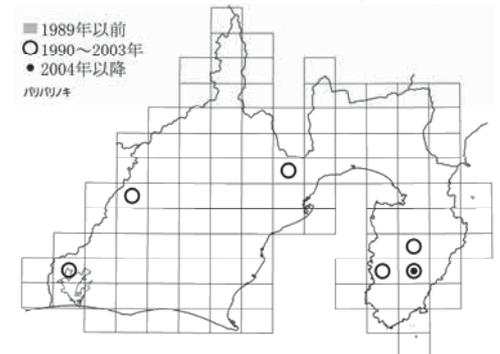
森林の伐採(11)が減少の主要因である。

### 6. 保護対策

生育している森林を保護林として残すこと。(湯浅保雄)



河津町 2017年5月8日 湯浅保雄



## ミツバテンナンショウ *Arisaema ternatipartitum* Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

サトイモ科 Araceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

多年草。高さ15~30 cm。球茎は扁球形。葉は2個。小葉は柄がなく卵形で3個あり、縁に微鋸歯がある。花期は4~5月。花序は葉よりも早く展開する。仏炎苞は紫褐色で口辺部は耳状に反曲する。付属体は円柱状で、先はややふくれて円頭。近縁種のムサシアブミは葉の縁に鋸歯がなく、付属体の先は鑑状である。

### 2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

### 3. 生育環境

温帯山地の落葉樹林内の沢沿いなどの、やや湿った砂礫地に生育する。

### 4. 生育状況

産地は中部に局部的で少ない。産量は多い。植林された林床にも多く残存しているが開花株は少ない。

### 5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が主要因である。被陰も脅威である。

### 6. 保護対策

植生遷移を抑制するなどの生育環境を維持管理することが重要である。(宮崎一夫)



静岡市 2016年4月30日 室伏幸一



## ミズオオバコ *Ottelia alismoides* (L.) Pers.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

トチカガミ科 Hydrocharitaceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU) ]

### 1. 種の解説

沈水性の一年草または多年草。高さ水中で5~10 cm。葉は束生して葉柄があり、葉身は柔らかく卵状披針形で長さ10~30 cm、時には50 cmに達し、生育環境により著しい変異がある。花期は8~9月。葉間から花茎を出して、先端の苞鞘の中から径3 cmの両性花を1個、または単性花を複数個つけ水上に開く。花弁は卵形で白色または淡桃色で3個。雄蕊3個。雌蕊3個。近縁種のスプタは花弁が線状披針形である。

### 2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国、フィリピン、インド、エジプト、オーストラリアに、国内では北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では西部に分布する。

### 3. 生育環境

耕作水田、休耕田や溝の中などに沈水して生育する。

### 4. 生育状況

産地は点在する。産量はやや多い。年による消長がある。今回から調査対象としたので、この他の産地もあると思われる。

### 5. 減少の主要因と脅威

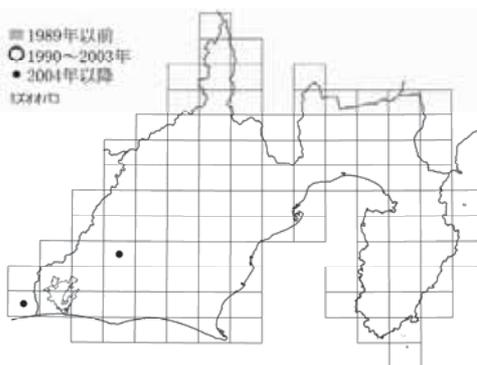
農薬汚染(32)が主要因である。乾田化(15)も生育の脅威である。

### 6. 保護対策

減農薬農業を推進することが重要である。(宮崎一夫)



浜松市 2004年10月17日 宮崎一夫



## ヒナノシヤクジョウ *Burmattia championii* Thwaites

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ヒナノシヤクジョウ科 Burmanniaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

多年草。菌従属栄養植物。高さ3~8 cm。葉緑素を欠き全体がほぼ白色。根茎はふくらみひげ根がある。茎は短く立つ。葉は互生して鱗片状で小さい。花期は7~9月。花は長さ1 cm、無柄で茎頂に数個が頭状に集まる。花被片は基部で合着し翼がなく、先が3裂して開くと黄色が目立つ。近縁種のシロシヤクジョウは数個の花が総状につき花被片に翼がある。

### 2. 分布

国外では台湾、中国、東南アジアに、国内では本州（関東地方以西）、四国、九州、沖縄に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

### 3. 生育環境

暖帯丘陵地の谷間に多く、常緑樹林や植林の林床など、やや薄暗く多湿な腐植土や泥湿地に生育する。

### 4. 生育状況

産地は中部では少なく西部に多くある。局所的に群生している産地もある。発生株数は年により消長がある。

### 5. 減少の主要因と脅威

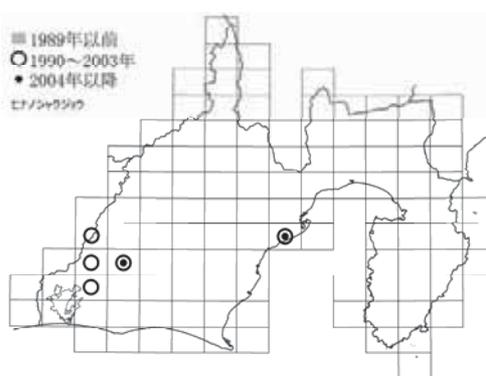
森林伐採 (11) や土地開発 (23) により産地が減少している。

### 6. 保護対策

生育できる環境への依存度が高いので、生育に適するように保全することが重要である。(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki  
浜松市 2016年7月24日 宮崎一夫



## アマナ *Amana edulis* (Miq.) Honda

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

多年草。高さ15~20 cm。地中深くに広卵形の鱗茎がある。葉は2個あり線形で長さ15~25 cm、幅5~10 mm、白条はない。花期は3~5月。苞葉は線状披針形でふつうは2個つく。長い茎の先に1花をつける。花は晴天時に開く。花被片6個は長楕円形で長さ2~2.4 mm、白色で基部が緑黄色で淡赤褐色の筋がはいる。近縁種のヒロハノアマナは苞葉が3個で葉の幅が7~15 mmで白条がある。

### 2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では西部、東部、伊豆に分布する。

### 3. 生育環境

丘陵地や低山の日当たりのよい林縁や草地に生育する。

### 4. 生育状況

産地は広範囲に多い。産量も多い。しかし園芸採取により開花株は少なく株数も減少している。

### 5. 減少の主要因と脅威

園芸採取 (41) と植生遷移 (54) が脅威である。

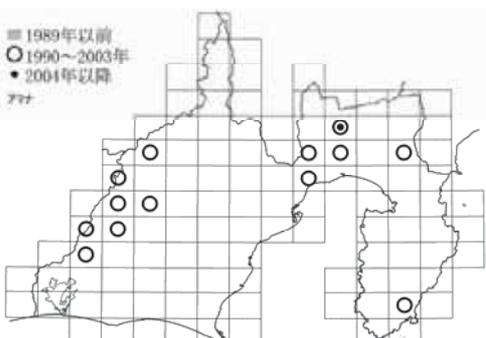
### 6. 保護対策

草刈りなどを行い植生遷移を止めることも保護対策の一つである。

(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki  
浜松市 2000年4月14日 宮崎一夫



## オオウバユリ *Cardiocrinum cordatum* (Thunb.) Makino

var. *glehnii* (Fr. Schmidt) H. Hara

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

多年草。高さは、8~1.3 m。地下に根出葉の柄がふくれた白色鱗片がある。葉は茎の中部以下に数個集まってつく。葉は卵状長楕円形で長さ20~30 cm、基部は心形。花期は7~8月。茎の上部に10~20個の白色の花を水平につける。花の長さは10~15 cm。ウバユリの花の長さは7~10 cm。

### 2. 分布

国外ではサハリンに、国内では南千島、北海道、本州(中・北部)に分布する。県内では中部に分布する。南アルプスが分布の南限である。

### 3. 生育環境

冷温帯の谷筋の草地や林縁。

### 4. 生育状況

大井川上流部の谷筋に生育しているが、近年、シカによる食害で急速に減少している。

### 5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)による植生の変化とシカによる食害(52-1)が減少の主要因である。

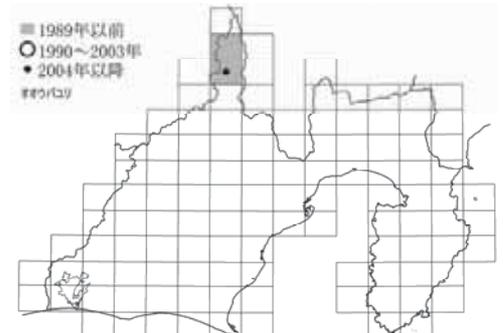
### 6. 保護対策

生育地をシカよけの柵で囲むこと。

(湯浅保雄)



静岡市 2018年8月25日 湯浅保雄



## カタクリ *Erythronium japonicum* Decne.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリー 部会注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。鱗茎は筒状楕円形で長さ5 cm。葉は開花する株で、2個あり長楕円~狭卵形で長さ5~12 cm、表面に通常は暗紫色の斑がある。花期は3~5月。花は花柄の先に1個つける。花被片は披針形で、日を受けると反転し紅紫色で長さ4~5 cm、内側の奥にW字の蜜標があり、その奥に蜜がある。葯は濃紫色。蒴果は3稜形。品種のシロバナカタクリは花被片が純白で葯が黄色である。種子が発芽して開花するまで7~8年かかる。

### 2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、サハリンに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

### 3. 生育環境

暖帯から温帯の丘陵地・山地の落葉樹林下に生育する。

### 4. 生育状況

産地及び産量はきわめて多い。保護されて群生する所と、植生遷移や園芸採取の影響で散生する所がある。

### 5. 減少の主要因と脅威

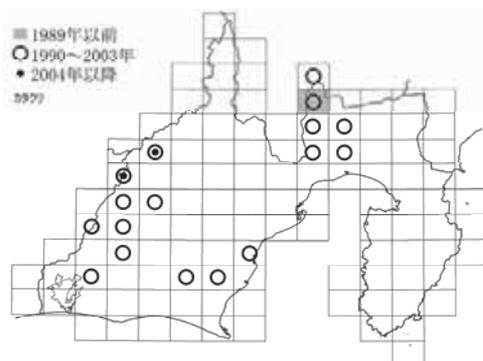
ササ群落などへの植生遷移(54)とスギ・ヒノキの植林が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

### 6. 保護対策

植林地は落葉樹林への転換を図る。生育地の保護と園芸採取を防ぐために立ち入りを禁止する。(宮崎一夫)



浜松市 2005年4月16日 宮崎一夫



## ホソバノアマナ *Lloydia triflora* (Ledeb.) Baker

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

多年草。高さ15~25 cm。鱗茎は楕円形で径1 cm。根出葉は1個が立ち上がり断面は3稜形で長さ30 cm。茎葉は中部に1個あり長さ7 cm。花期は5~6月。茎は分枝して1~5個の花をつけ、日を受けると上を向いて開く。花被片は狭長楕円形で径1~1.5 cm、基部に腺体はなく、白色で裏面に淡緑色の線状斑がある。近縁種のチシマアマナは1茎1花で花被片の基部に腺体がある。

### 2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシアなどに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部と西部に分布する。

### 3. 生育環境

温帯山地の適湿な草原や、明るい落葉樹林内に生育する。

### 4. 生育状況

産地は天竜区に限定的で少ない。産量はきわめて少ない。植生遷移の圧力を受けているが、株の存続は維持している。

### 5. 減少の主要因と脅威

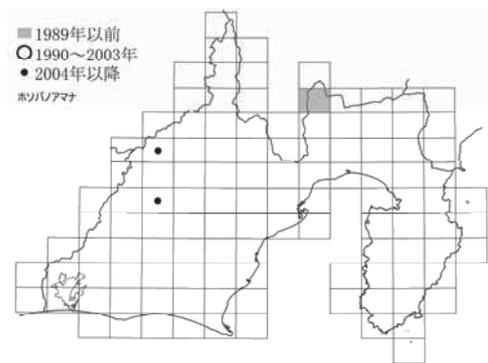
植生遷移(54)が主要因である。乾燥化(71)と園芸採取(41)も脅威である。

### 6. 保護対策

植生遷移の抑制と生育環境を維持するために、立ち入りを禁止することが重要である。(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki  
浜松市 2017年5月4日 宮崎一夫



## ギンラン *Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume var. *erecta*

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

多年草。高さ10~40 cm。根茎は太さ2~3 mm、開出した淡褐色の根毛がつく。茎の下部に褐色の鱗片葉が1~3個つく。葉は3~6個が互生し淡緑色の狭楕円形で長さ3~10 cm、平行脈が裏に凸となり数個あり、茎を抱く。苞は線形で8 mm。花期は5~6月。花は純白で上向きに半開して、長さ7~9 mm。距は円錐形で長さ2 mm。唇弁は3裂して、中裂片は楕円形。近縁種のササバギンランは中裂片が心形である。

### 2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国、ヒマラヤに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

### 3. 生育環境

暖帯から温帯下位の林床に生育する。

### 4. 生育状況

産地は各地に点在する。産量は少ない。生育状況は園芸採取や植生遷移の圧力を受け減少している。

### 5. 減少の主要因と脅威

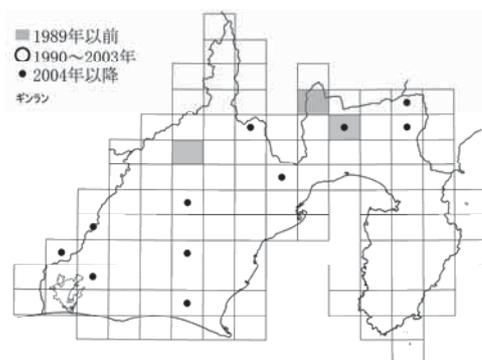
園芸採取(41)が主要因で、植生遷移(54)も脅威である。

### 6. 保護対策

自然産物は共有の財産であり、多くの県民が観賞できるように、保護を啓発することが重要である。(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki  
掛川市 2016年4月27日 宮崎一夫



## アオキラン *Epipogium japonicum* Makino

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 絶滅危惧 I A 類 (CR) ]

### 1. 種の解説

多年草。菌従属栄養植物。高さ10~20 cm。茎は肉質で淡黄褐色、まばらに鞘状葉がある。花期は8~9月。花は茎の上部に4~7個が総状につく。花は淡褐色で紫色の細点がある。萼片と花被片は狭披針形で10~12 mm。唇弁は三角状で内側に巻く。距は6~8 mm。近縁種のタシロランは全体に白色で、花被片は披針形で長さ8~9 mm。距は長楕円形で長さ4 mmである。

### 2. 分布

国外では台湾、中国に、国内では本州（東北・中部地方）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。富士山にも生育する可能性がある。

### 3. 生育環境

冷温帯の落葉樹林下に生育する。

### 4. 生育状況

産地は南アルプスに局限して少ない。産量は散生する。

### 5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) が主要因である。土壌の流出 (71) やマニアによる採取 (41) も脅威である。

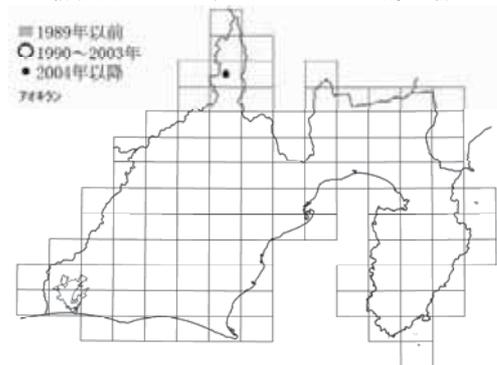
### 6. 保護対策

生育地は過去の場所も含めて、立ち入りを禁止することが重要である。産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



静岡市 2011年9月18日 加藤 徹



## シロテンマ *Gastrodia elata* Blume f. *pallens* (Kitag.) Tuyama

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 絶滅危惧 I A 類 (CR) ]

### 1. 種の解説

多年草。菌従属性栄養植物。高さ15~35 cm。葉緑素がなく全体が淡黄白色。塊茎は肥厚した楕円形。花期は6~7月。花は総状に5~10個つく。花は3萼片が合着して壺状。唇弁は卵状長楕円形。近縁種のおニノヤガラは高さが40~100 cmあり花が20~50個、全体が黄褐色、アオテンマは高さが40~100 cmあり花が20~50個、全体が緑色。

### 2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州（群馬県~滋賀県）に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

### 3. 生育環境

温帯山地の雑木林の林内に生育する。

### 4. 生育状況

産地は散在する。産量は少ない。近年の正確な生育状況は不明である。

### 5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) が主要因である。観察者や撮影者の踏圧 (51) も脅威である。

### 6. 保護対策

生育地の環境を変化させないために、立ち入りを制限することが重要である。産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



富士宮市 2018年7月20日 宮崎一夫



**アケボノシュスラン** *Goodyera foliosa* (Lindl.) Benth. ex C. B. Clarke  
var. *laevis* Finet

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

**1. 種の解説**

常緑多年草。茎は基部が這い、斜上し 5~10 cm。葉は 4~5 個を互生し、卵形で緑色である。花期は 9~10 月。花は花茎に 3~7 個つけ、鐘形で淡紅紫色である。

**2. 分布**

国外では朝鮮半島に、国内では南千島、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

**3. 生育環境**

丘陵地から山地の谷筋など湿った樹林下に生育する。生育する場所の標高差はかなりある。

**4. 生育状況**

各地に生育するが、生育地は限られている。群生する場所もある。

**5. 減少の主要因と脅威**

丘陵地の産地では土地造成 (23) などによって消失の危険性がある。また、山間部の生育地では森林伐採 (11) により生育環境の悪化が懸念される。

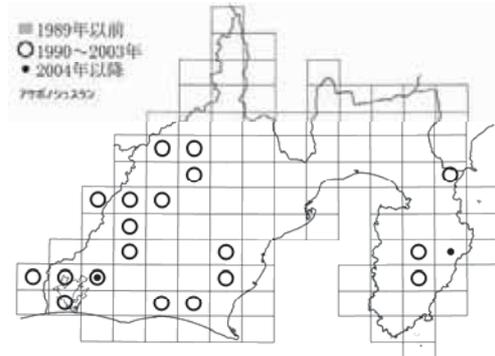
**6. 保護対策**

生育地及び生育する森林の保護が必要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 1995年8月26日 内藤宇佐彦



**ベニシュスラン** *Goodyera biflora* (Lindl.) Hook. f.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

**1. 種の解説**

常緑多年草。高さ約 3~8 cm。茎は地上を這い、上部は斜上する。葉は卵形で長さ 2~4 cm、表面はビロード状の濃緑色で白色の網目模様が入る個体もあり、地上を這うテイカカズラの葉に似ている。花期は 6~7 月。花は帯紅橙色で長さ 2.5~3 cm、筒状で横向きからやや上向きに先端部が開く。近縁種のシュスランやアケボノシュスランは花が小さく長さ 1 cm 以下である。

**2. 分布**

国外では台湾、朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

**3. 生育環境**

暖帯の丘陵や山地で沢沿いなど湿り気があり、少し明るい苔むした礫地や岩上に生育する。

**4. 生育状況**

産地は西部に多いが各地に点在する。産量は少ない。多くは苔むした岩上に数株が集まり、その一部の株が開花する。園芸採取で株数が急減している。

**5. 減少の主要因と脅威**

植物体の割に花が大きく華やかであるので園芸価値が高く採取 (41) が主要因である。

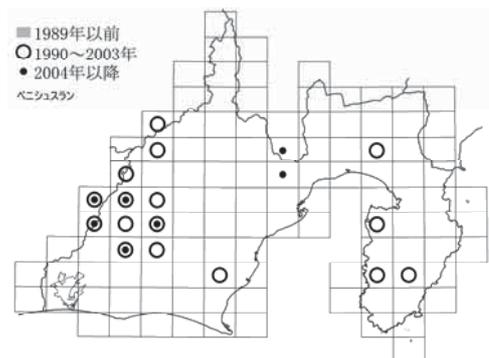
**6. 保護対策**

採取をすることなく、自生地で背景を含めた環境も同時に観賞するように啓発することが大切である。

(宮崎一夫)



浜松市 2017年7月20日 宮崎一夫



## シュスラン *Goodyera velutina* Maxim.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

多年草。高さ 10~15 cm。茎は横に這い、先端が上向する。葉は数個つけ暗緑色で中央に白色の 1 条あり、長卵形で長さ 2~4 cm。花期は 8~9 月。花は帯紅白色で 4~15 個を総状花序につける。花は長さ 6~8 mm、横向きに半開する。近縁種のミヤマウズラは葉にふつう網目模様がある。

### 2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国に、国内では本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

### 3. 生育環境

暖温帯の常緑樹林下の多湿地に生育する。

### 4. 生育状況

産地は点在する。産量は少ない。無性株が小群落を形成し、一部が開花すると目立ち、園芸採取の危険性が高まる。

### 5. 減少の主要因と脅威

園芸採取 (41) が主要因である。土壌の乾燥化 (71) も脅威である。

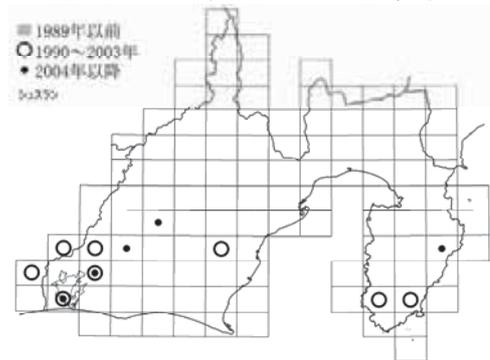
### 6. 保護対策

生育地の保護と園芸採取を防ぐために、産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



湖西市 2006年9月11日 宮崎一夫



## ノビネチドリ *Neolindleya camtschatica* (Cham.) Nevski

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

多年草。高さ 30~60 cm。茎は円柱状に肥厚する根から出る。葉は楕円形で長さ 7~15 cm、やや茎を抱き、縦皺があり、縁が波状である。花期は 5~7 月。花は淡紅紫色で長さ 5 mm、多数を総状につける。唇弁は楔状広卵形で先が 3 浅裂する。距は長さ 3~5 mm。近似種のツレサギソウは唇弁が基部で 3 裂する。

### 2. 分布

国外では朝鮮半島、ロシア（サハリン、カムチャツカ）に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

### 3. 生育環境

温帯山地の樹林下の湿った肥沃土に生育する。

### 4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に富士山と天竜区に記録があるが、その後の確認情報はない。

### 5. 減少の主要因と脅威

土砂の流出 (71) など生育地の環境悪化が主要因である。園芸採取 (41) も脅威である。

### 6. 保護対策

生育が確認された場合は、環境に応じて善処することが重要である。産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



石川県 2008年7月26日 宮崎一夫



## コハクラン *Oreorchis indica* (Lindl.) Hook. f.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード9

ラン科 Orchidaceae

[ 2004 年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I A 類 (CR) ]

### 1. 種の解説

多年草。高さ 30~40 cm。偽球茎は白色でらっきょうのような形。葉は 1 個あり披針形で長さ 15 cm、縦皺があり中央脈が白色である。花期は 6~7 月。花は琥珀色で 5~10 個を総状花序につける。萼片と側花弁は狭楕円形で斜開し 1~1.2 cm。唇弁は白色で紅紫色の斑紋があり先は 3 裂し、隆起線はない。近似種のコケイランの唇弁は縦に 2 個の隆起線がある。

### 2. 分布

国外では台湾、中国、ヒマラヤに、国内では本州 (中部) に分布する。県内では中部 (南アルプス)、東部 (富士山) に分布する。

### 3. 生育環境

亜高山帯の針葉樹林内や林縁に生育する。

### 4. 生育状況

産地は南アルプスに局限する。産量は少ない。登山道脇に散見される程度である。

### 5. 減少の主要因と脅威

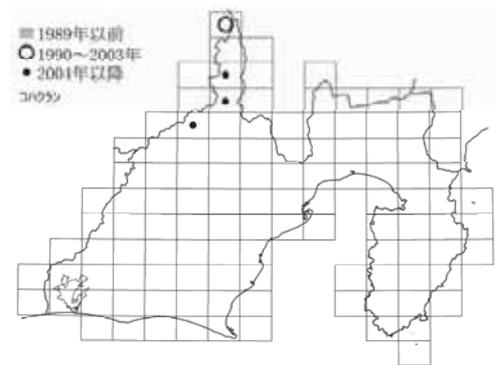
森林伐採 (11) と植生遷移 (54) が主要因である。

### 6. 保護対策

「国内希少野生動植物種」に指定。森林を伐採するときには皆伐しないで、択伐して急激な環境の変化を与えないように配慮をする。  
(宮崎一夫)



静岡市 2019 年 7 月 26 日 山崎由晴



## ギボウシラン *Liparis auriculata* Blume ex Miq.

(=キンボクラン)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[ 2004 年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I 類 (EN) ]

### 1. 種の解説

多年草。高さ 15~30 cm。葉は 2 枚つき、広卵形で基部は心形。長さ 5~15 cm、幅 2.5~8 cm、葉脈の間が窪み、縦皺が目立つ。花期は 7~8 月。淡黄緑色の小花を十数個つける。唇弁の中心は帯状に暗紫色に染まる。花被片の長さは約 5 mm。クモキリソウに似るが、唇弁の暗紫色の帯状模様、葉の葉脈間が窪むことなどで区別できる。

### 2. 分布

国外では韓国 (済州島)、台湾に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

### 3. 生育環境

冷温帯から暖温帯の林床や湿原に生える。

### 4. 生育状況

前回 (2004 年) の調査や今回の調査では確認できていない。

### 5. 減少の主要因と脅威

園芸用採取 (41) が減少の主要因である。

### 6. 保護対策

自生地が確認できた場合は、園芸採取を避けるため、産地情報の公開には慎重に配慮すること。  
(湯浅保雄)



富士宮市 2019 年 9 月 26 日 宮崎一夫



## ヒメフタバラン *Neottia japonica* (Blume) Szlach.

(=ムラサキフタバラン)

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。茎の断面は四角形。葉は三角状卵形で長さ1~2 cm、茎の上部に対生する。花期は4~5月。花は淡紫褐色。唇弁は長さ6~8 mm、基部の左右に耳状裂片があり、2深裂して逆Y字形に開く。品種のフイリヒメフタバランは葉の中肋に白条がはいり、ミドリヒメフタバランは花が淡緑色。近縁種のアオフタバランは花期が8月で唇弁が2中裂する。

### 2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では西部に分布する。

### 3. 生育環境

丘陵から低山のやや湿ったアカマツの疎林下や常緑広葉樹林下に生育する。

### 4. 生育状況

産地は近年多く確認されて増えている。産量は散生または小群生している。

### 5. 減少の主要因と脅威

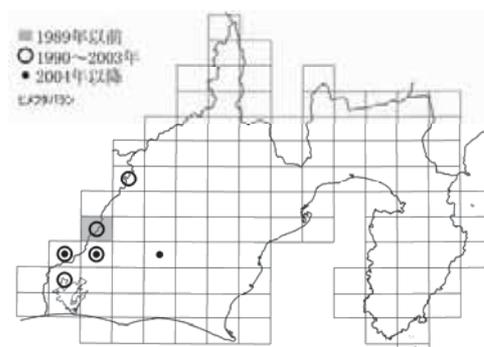
森林伐採(11)が主要因で、林道開発(24)も脅威である。

### 6. 保護対策

地上部が確認できるのは短期間なので、丘陵や低山の林道開発や造成をするときには、花期にアセスメント調査を行うことが重要である。(宮崎一夫)



周智郡森町 2016年4月3日 宮崎一夫



## アオフタバラン *Neottia makinoana* (Ohwi) Szlach.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。葉は茎の下部に対生し、三角状卵形で長さ1~4 cm、青緑色で白斑がある。花期は7~8月。花茎は直立して鱗片葉が数個あり、白色短毛が密生し、上部に緑色の花をまばらに5~20個つける。萼片と側花弁は線状披針形で長さ2~3 mm。唇弁は基部に耳状の裂片がなく、前に張り出して長さ6~8 mm、先が2浅裂~中裂して裂片は楕円形。近縁種のタカネフタバランには、唇弁の基部に耳状の裂片がないが、葉は茎の中部につく。またヒメフタバランは唇弁の基部に耳状の裂片がある。

### 2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

### 3. 生育環境

暖温帯山地の腐植土が多い樹林下に生育する。

### 4. 生育状況

産地は多い。産量は多い。群生する割には開花する株数はそれほど多くはない。

### 5. 減少の主要因と脅威

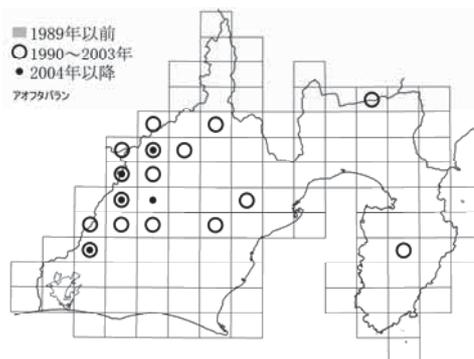
森林伐採(11)と植生遷移(54)が主要因である。

### 6. 保護対策

森林伐採は皆伐しないで、択伐して大きな環境の変化を与えないように配慮することが重要である。(宮崎一夫)



浜松市 2017年8月27日 宮崎一夫



## ホザキイチヨウラン *Malaxis monophyllos* (L.) Sw.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

多年草。高さ10~35 cm。葉は下部に1個つき、広卵形で長さ4~8 cm、やや肉質で光沢がある。花期は7~8月。花は淡緑黄色で花茎の上部に多数が穂状につく。苞は三角状披針形で長さ1~2 mm。萼は披針形で長さ2.5 mm。側花弁は線形で長さ1~2 mm。唇弁は基部近くの両縁に肉質の裂片がある。高さ5 cmほどの個体や50 cmにもなる個体もある。近似種のニラバランは本県では確認されていないが沿海の草地に生育する。

### 2. 分布

国外ではシベリア、朝鮮半島、中国、台湾、フィリピン、欧州、北米に、国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では西部、中部 (南アルプス)、東部 (富士山) に分布する。

### 3. 生育環境

温帯から高山帯の適湿な林縁や草地に生育する。

### 4. 生育状況

産地は垂直にも水平にも広範囲である。産量はそれほど多くはなく、各地に散生から単生している。

### 5. 減少の主要因と脅威

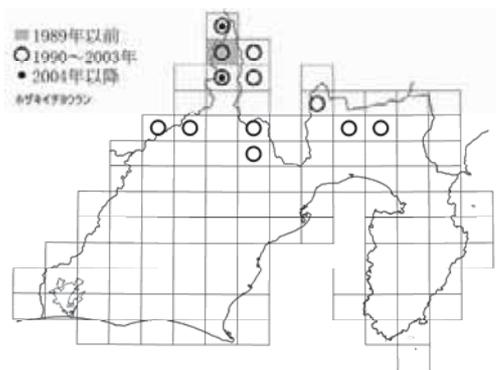
遷移や乾燥 (54) が主要因である。踏圧 (51) や園芸採取 (41) も脅威である。

### 6. 保護対策

生育に脅威を与えないように、登山道を迂回整備することも重要である。(宮崎一夫)



静岡市 2016年7月29日 宮崎一夫



## アリドオシラン *Myrmechis japonica* (Rchb. f.) Rolfe

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

多年草。高さ3~8 cm。葉は3~5個つきアカネ科のアリドオシに似て広卵形で長さ5~12 mm、表面に粒状微突起がある。花期は7~8月。花は1~3個つき白色。花茎に多細胞の白色縮毛がある。苞は膜質の披針形で長さ4~6 mm。萼片は披針形で長さ6~7 mm。側花弁は広披針形で長さ6~7 mm。唇弁は基部がふくれて長さ1 cm、舷部の先は2裂する。近縁種のヒメミヤマウズラは舷部の先は2裂しない。

### 2. 分布

国外ではロシア (北クリール)、朝鮮半島、中国に、国内では南千島、北海道、本州、四国に分布する。県内では西部、中部、東部、伊豆に分布する。

### 3. 生育環境

温帯から亜高山帯で深山の針葉樹下に生育する。

### 4. 生育状況

産地は広範囲にあり多い。産量も多い。開花株も多く生育状況は良好である。多少なり植生遷移の圧力を受けている。

### 5. 減少の主要因と脅威

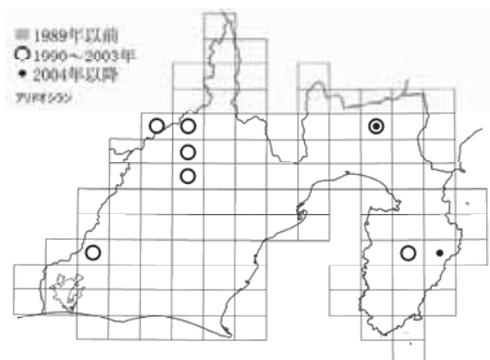
森林伐採 (11) と植生遷移 (54) が脅威である。栽培が困難でありかつ矮小で花も小さく、園芸的な価値が薄い為に園芸採取されることは少ない。

### 6. 保護対策

森林を伐採する時には皆伐ではなく択伐して、生育環境の急激な変化を避ける。(宮崎一夫)



裾野市 2018年7月25日 宮崎一夫



**ホソバノキソチドリ** *Platanthera tipuloides* (L. f.) Lindl. subsp. *tipuloides*  
var. *sororia* (Schltr.) Soó

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

**1. 種の解説**

多年草。茎の高さ 20~40 cm。葉は下部に 1 枚つき、狭長楕円~卵形で長さ 3~7 cm、幅 1~2 cm。その上に披針形の鱗片葉が 1~3 個つく。花期は 7~8 月。花茎に淡黄緑色の花を多数やや密につける。背萼片は卵形で長さ 2~3 mm。唇弁は広線形で 5~6 mm。距は下垂または前方に湾曲し、長さ 12~17 mm。

**2. 分布**

国外ではロシア (北クリール) に分布する。国内では南千島、北海道、本州、四国に、県内では中部に分布する。

**3. 生育環境**

冷温帯から亜高山帯の日当たりのよい草地に生育する。

**4. 生育状況**

南アルプス周辺の山地に広く分布するが、個体数は少ない。

**5. 減少の主要因と脅威**

植生遷移 (54) による草地の減少が減少の主要因である。近年はシカによる食害 (52-1) も脅威である。

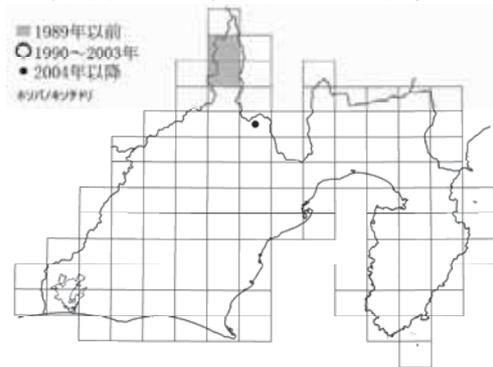
**6. 保護対策**

シカによる食害を防ぐこと。

(湯浅保雄)



長野県 2014年7月17日 室伏幸一



**ヒトツボクロ** *Tipularia japonica* Matsum.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

**1. 種の解説**

多年草。葉は 1 個で長柄があり卵状楕円形で長さ 3~6 cm、3 脈の縦皺がある。葉の表面は深緑色でやや光沢があり中肋が白色である。葉の裏面は赤紫色で時に緑色である。花期は 5~6 月。花茎は直立して長さ 20~30 cm。花は小さく淡黄緑色で数個つく。唇弁は倒卵形で長さ 0.3 cm、3 裂して中裂片は広線形。距は淡紅紫色で長さ 0.5 cm、下垂する。近似種のイチヨウランは花を単生する。

**2. 分布**

国外では朝鮮半島に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

**3. 生育環境**

丘陵地のアカマツ林や植林から山地の針葉樹林下まで広範囲に生育する。

**4. 生育状況**

産地は西部を主として多く点在する。産量は群生することはない。少数の開花株がありその付近に数株の無性株が生育している。

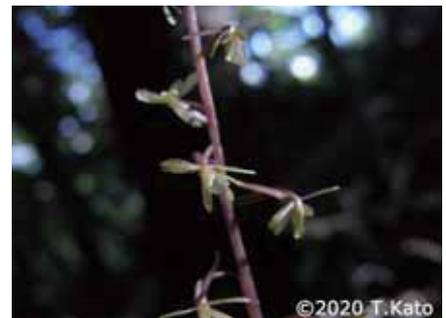
**5. 減少の主要因と脅威**

森林伐採 (11) が主要因である。ラン科であるが花が小さく観賞価値が劣るためか園芸採取による脅威は少ない。

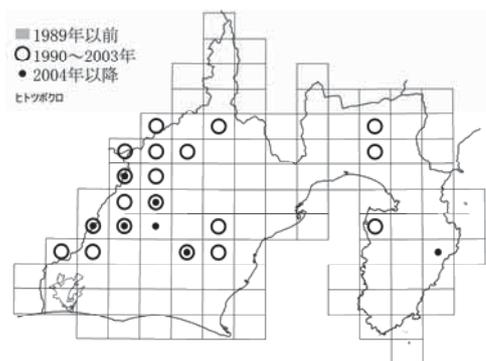
**6. 保護対策**

森林を皆伐することなく択伐して、急激な生育環境の変化をさせない。

(宮崎一夫)



浜松市 2011年6月26日 加藤 徹



## コキンバイザサ *Hypoxis aurea* Lour.

静岡県カテゴリ 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

キンバイザサ科 Hypoxidaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

### 1. 種の解説

多年草。根茎は塊状で径6~10 mm。短い茎に葉を数枚束生する。葉は線形で長さ10~25 cm、幅2~4 mm。全体に長い毛がある。花期は4~6月。長さ5~10 cmの花茎を出して、その先に1~2個の花をつける。花被片は黄色で6個、披針状楕円形で長さ4~6 mm。蒴果は長楕円形で長さ8~10 mm、種子は球形で径1.2~1.5 mm。

### 2. 分布

国外では中国南部、台湾、マレーシア、インドに、国内では本州(宮城県以南)、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

### 3. 生育環境

暖温帯の草地や歩道脇など。

### 4. 生育状況

産地は限られていて個体数は少ない。

### 5. 減少の主要因と脅威

開発や植生遷移(54)による草地の消失(16)が減少の主要因である。また、人による踏みつけ(51)も脅威である。

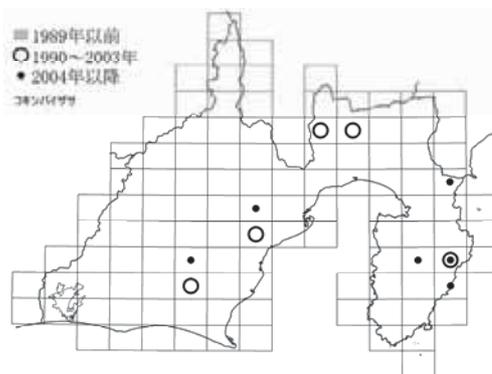
### 6. 保護対策

草地を維持管理すること。

(湯浅保雄)



賀茂郡東伊豆町 2018年6月25日 宮崎一夫



## ヒメニラ *Allium monanthum* Maxim.

静岡県カテゴリ 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

ヒガンバナ科 Amaryllidaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

### 1. 種の解説

多年草。高さ5~10 cm。鱗茎は球形で径10 mm。葉は線形で長さは10~25 cm、1~2個つき断面が三日月形でニラの匂いがする。花期は4月。花は鐘形で長さ4 mm、花茎の先に1~2個つける。両性株と雄性株と雌性株がある。花被片は6個で、白色または微紅色で平開はしない。近縁種のヤマラッキョウは花茎の先に多数の花をつけ、花被片が紫紅色である。

### 2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ウズベキスタンに、国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

### 3. 生育環境

山地の湿り気のある草地や落葉広葉樹林内に生育する。

### 4. 生育状況

産地は点在する。産量は群生して多い。地上部が現れている期間が3~5月と短いことと相まって、矮小で繊細なので産地が見落とされている可能性もある。

### 5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が主要因である。

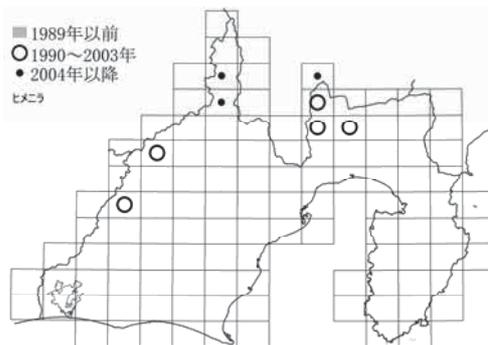
### 6. 保護対策

植生遷移を抑制するなどの生育環境を維持管理することが重要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2001年4月7日 宮崎一夫



## オオキツネノカミソリ *Lycoris sanguinea* Maxim.

var. *kiushiana* (Makino) Makino ex Akasawa

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

ヒガンバナ科 Amaryllidaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

多年草。高さ約40～50 cm。葉は線形で長さ約40 cm、幅1.3～1.8 cm。葉は開花期にはない。花期は7～8月。花茎の先に3～4個の花をつける。花は大型で花被片は黄赤色、長さは9 cm内外、雄蕊は花被片より長く花冠の外に突き出る。類似のキツネノカミソリでは、雄蕊は花被片とほぼ同じで花冠の外に突き出ることはない。

### 2. 分布

日本固有変種で、本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

### 3. 生育環境

暖温帯の落葉樹林内や林縁。

### 4. 生育状況

産地は静岡市、焼津市、旧天竜市、旧佐久間町、旧水窪町の一部と限られているが、大きな群落を形成している所もある。

### 5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)による環境の変化が減少の主要因である。

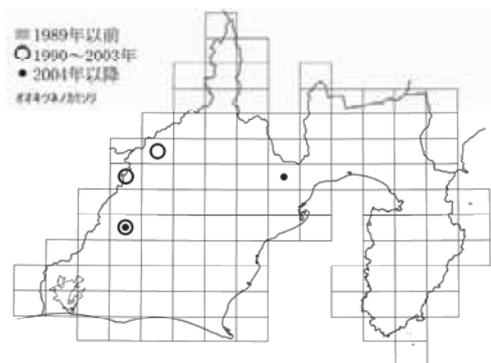
### 6. 保護対策

生育地では森林の皆伐や人工林化を避けること。

(湯浅保雄)



浜松市 2017年8月6日 宮崎一夫



## ヤマアゼスゲ *Carex heterolepis* Bunge

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

多年草。高さ20～60 cm。地下に太い匍枝がある。基部の鞘は淡褐色で少し糸網がある。葉は幅3～5 mm。果期は5～6月。小穂は3～7個ついて直立し、頂生のは雄性、側生のは雌性の円柱形、長さ2～6 cm、柄がない。果胞は上端が急に短い嘴になる。

### 2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では北海道西南部、本州、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

### 3. 生育環境

山地の河川の水辺や湿地に生育する。

### 4. 生育状況

東部と西部の各地に生育する。産地は少ない。

### 5. 減少の主要因と脅威

河川の砂利採取や河川開発(13)で生育地が減少している。また、植生遷移の進行(54)で生育環境が悪化してきている。

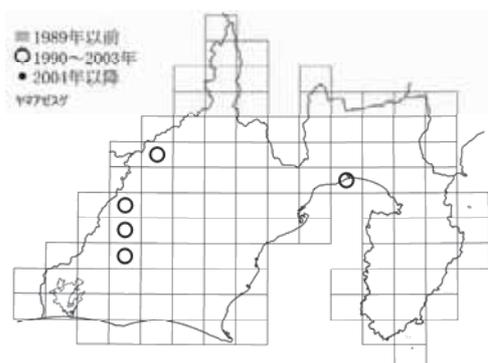
### 6. 保護対策

生育地の保護と除草など生育環境の維持が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 1999年4月29日 内藤宇佐彦



## サツマスゲ *Carex ligulata* Nees ex Wight

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

多年草。草丈 40~70 cm。匍枝はなく、ゆるく叢生する。基部の鞘は葉身がなく、上部の鞘は葉身をつける。葉は幅 5~12 mm。小穂は 5~7 個、茎の上部に接近してつける。頂小穂は雄性で長さ 1~3 cm。側小穂は雌性で、長さ 2~5 cm。果胞は長さ 4~5 mm で灰白色の毛が密生し、先はやや長い嘴となる。果期は 6~7 月。

### 2. 分布

国外では中国、朝鮮半島、台湾、インドに、国内では本州(関東地方南部以西)、四国、九州、対馬、トカラ列島に分布する。県内では中部に分布する。

### 3. 生育環境

暖帯の湿り気のある林内や林縁。

### 4. 生育状況

前回(2004年)調査時に比べると確認場所が大幅に減少している。

### 5. 減少の主要因と脅威

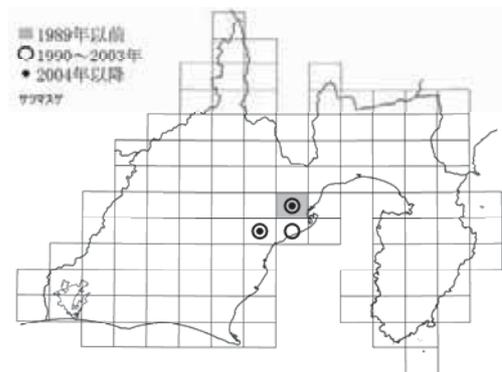
土地開発(23)と森林の伐採(11)が減少の主要因である。

### 6. 保護対策

開発予定地で生育が確認されたら、将来とも保全が担保される場所に移植すること。(湯浅保雄)



静岡市 2010年6月12日 内藤宇佐彦



## マンシュウクロカワスゲ *Carex peiktusani* Kom.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更コード4

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー 絶滅危惧IB類 (EN)]

### 1. 種の解説

多年草。高さ 30~80 cm。茎は叢生し基部の鞘は暗赤褐色。葉の幅は 2~3 mm。葉の下面は乳頭状突起が密生していて粉白色。小穂は雌雄性で長さ 10~25 mm。雌鱗片は淡褐色。果胞は 7~8 月に熟す。柱頭は 3 岐。果胞は淡青色の 3 稜形で長さは 3~4 mm。近縁種のヒラギンスゲは、果苞が卵形で長さ 2~3 mm である。

### 2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州中部(八ヶ岳・南アルプス)に分布する。県内では西部に分布する。

### 3. 生育環境

亜高山帯の岩場に生育する。

### 4. 生育状況

産地は天竜区に限定する。産量は小群生する。生育状況は植生遷移の圧力を受けている。

### 5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が主要因である。

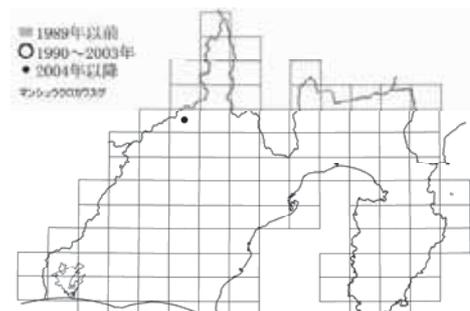
### 6. 保護対策

植生遷移を抑制するなどの、生育環境を維持管理することが重要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2006年7月24日 加藤 徹



## ヒカゲシラスゲ *Carex planiculmis* Kom.

静岡県カテゴリ 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

### 1. 種の解説

多年草。高さ 40~60 cm。匍枝を伸ばしまばらに生える。基部の鞘は淡色。葉は鮮緑色で白色を帯びず、幅 5~10 mm。果期は 5~7 月。小穂は 4~5 個やや離れてつく。果胞は長さ 3.5~4 mm、嘴は長く、脈が明らかで無毛。

### 2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東北部、ロシア（ウスリー、サハリン）に、国内では北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では中部に分布する。

### 3. 生育環境

亜高山帯の谷筋、林下、草地、針葉樹林の林床に生えることが多い。

### 4. 生育状況

大井川上流（西俣・千枚岳麓・悪沢など）の高所に記録がある。

### 5. 減少の主要因と脅威

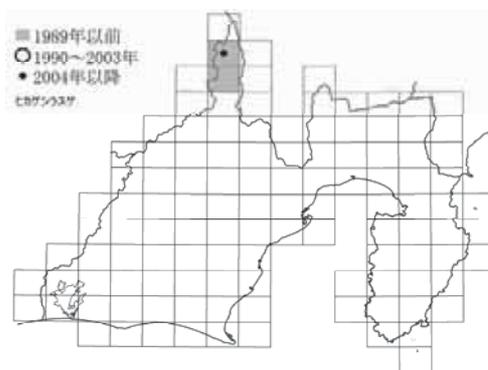
森林伐採（11）による土地改変、土地造成（23）、道路・林道建設（24）、シカ食害（52-1）、生育環境の変化による植生遷移（54）、土砂崩壊による生育地の消失（71）。

### 6. 保護対策

森林開発、道路整備などでは、事前の調査で見落としのないように注意する必要がある。（斎藤 猛）



岐阜県 2016年6月14日 室伏幸一



## ヤブスゲ *Carex rochebrunei* Franch. et Sav.

静岡県カテゴリ 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリ なし]

### 1. 種の解説

多年草。高さ 30~60 cm ほど。根茎は短く密に叢生する。葉の幅は 2~4 mm。果期は 5~7 月。花序は 8~9 個の小穂をつける。苞は葉状で花序より著しく長い。小穂は雌雄性で上部に多数の雌花を、基部に少数の雄花をつける。果胞は卵状披針形で扁平。縁に狭い翼がありざらつく。口部は 2 歯となる。柱頭は 2 岐。富士山が基準産地である。

### 2. 分布

国外では中国、台湾、インド、マレーシアに、国内では本州、四国に分布する。県内では東部と中部に分布する。

### 3. 生育環境

平地から低山の林内や草地。

### 4. 生育状況

富士山植物誌（梅村甚太郎 1923）の記録以来生育が確認されていなかったが、数年前、アセスメント調査で小山町に生育していることが確認された。

### 5. 減少の主要因と脅威

森林の開発（23）が減少の主要因である。

### 6. 保護対策

開発のための調査においては、必ず果期に調査を行うこと。

（湯浅保雄）



山梨県 2019年6月26日 室伏幸一



## ヒメアオガヤツリ *Cyperus extremiorientalis* Ohwi

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

一年草。高さ3~30 cm。茎は叢生する。葉は細く、幅1~2 mm。果期は8~10月。茎の頂に長さ3~12 cmの苞葉をつけ、多数の無柄の小穂を頭状に密につける。花序の径は5~15 mm。小穂は長さ3~5 mm、幅1.5 mm、やや扁平で多くの花がほぼ2列に並ぶ。果実は楕円形でほぼレンズ形。類似のシロガヤツリの果実には縁に狭い翼があるので区別できる。

### 2. 分布

日本固有種で、本州、四国に分布する。県内では西部に分布する。

### 3. 生育環境

池沼の岸辺や水田などの多湿地。

### 4. 生育状況

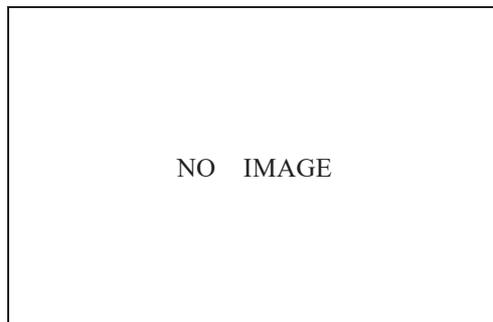
県内の産地は稀で、産量は少ない。静岡県植物誌(1984)に掛川市での記録があるが、前回(2004年)の調査、今回の調査でも確認できなかった。

### 5. 減少の主要因と脅威

池沼や湿地の開発(12、15)が減少の主要因と考えられる。

### 6. 保護対策

生育地が確認できたら、生育環境とともに保護すること。(湯浅保雄)



## シロガヤツリ *Cyperus pacificus* (Ohwi) Ohwi

静岡県カテゴリー 要注目種 (N-部会注目種) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

一年草。果期は8~10月。花序は頭状で球形、長さ幅とも5~10 mmで多数の小穂をつける。小穂は長さ3~5 mm、やや扁平、2列で一部らせん状に鱗片をつける。果実は狭楕円形で縁は狭い翼になる。

### 2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では北海道、本州に分布する。県内では西部に分布する。

### 3. 生育環境

低地や丘陵地の干上がったため池などに生育する。

### 4. 生育状況

湖西市と掛川市に生育する。生育地での個体数は年によって変動し、多くの個体が出現することもある。

### 5. 減少の主要因と脅威

ため池の埋め立てや改修(15)による生育地の消失が懸念される。

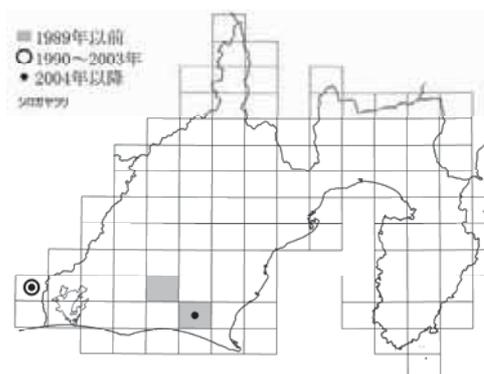
### 6. 保護対策

生育地であるため池の埋め立てや改修にあたっては、この植物の保護について配慮することが必要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2013年8月23日 内藤宇佐彦



## クジュウクリテンツキ *Fimbristylis cymosa* R. Br.

f. *depauperata* (T. Koyama) T. Koyama ex Yonek.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

一年草。高さ6~15 cm。根茎は短く分枝し、株立ちになる。葉は叢生し、繊細で無毛。果期は8~10月。花序は散形、小穂は狭卵形。果実はレンズ状で黒褐色。柱頭は2本。母種のシオカゼテンツキの茎の高さは15~40 cmとなる。

### 2. 分布

日本固有品種で、本州(千葉県、静岡県)に、県内では西部に分布する。母種はシオカゼテンツキというが静岡県には分布しない。

### 3. 生育環境

海岸の湿り気のある砂地。

### 4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には旧浜岡町での記録があるが、前回(2004年)調査でも、今回の調査でも確認されていない。

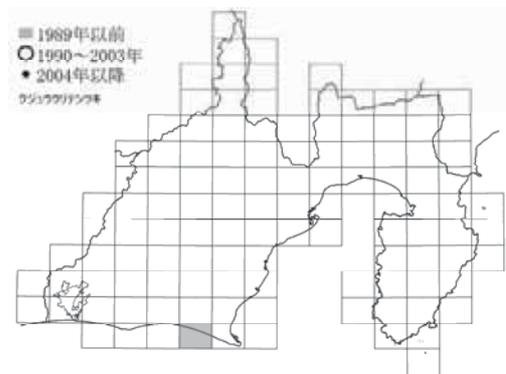
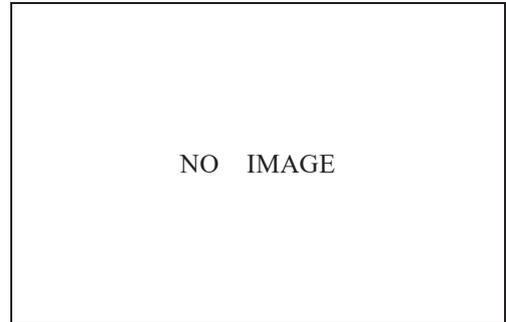
### 5. 減少の主要因と脅威

海岸の整備と開発(14)が減少の主要因であろう。

### 6. 保護対策

海岸を整備するときに、事前に調査を行い、生育が確認できたら、保護対策を講ずること。

(湯浅保雄)



## コマツカサススキ *Scirpus fuirenooides* Maxim.

静岡県カテゴリー 要注目種 (N- 部会注目種) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

### 1. 種の解説

多年草。マツカサススキに似るが、全体がやや細い。葉身は線形で幅3~4 mm。果期は8~10月。側生の分花序は1~2個の小穂集団をつけ、頂生の分花序は1回分岐し3~6個の小穂集団をつける。小穂集団は10~20個の小穂からなる。

### 2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

### 3. 生育環境

湿原や湿地に生育する。時に耕作放棄水田などに出現する。

### 4. 生育状況

各地に生育するが産地は少なく、個体数も少ない。耕作放棄水田のものは消長がある。

### 5. 減少の主要因と脅威

湿地や湿原の開発(15)で生育地が減少している。また、湿地植生遷移の進行(54)で生育環境の悪化も懸念される。

### 6. 保護対策

生育する湿地や湿原の保護と、植生遷移の進行の抑制のための草刈りなどが必要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2013年10月4日 宮崎一夫

